

## 【エクアドル内政・外交：2008年6月～7月】

### 1. 概要

- 6月19日：工業競争力大臣にアバド(Javier Abad)氏が就任。  
6月23日：アコスタ(Alberto Acosta)制憲議会議長の辞任。  
7月8日：オルティス(Fausto Ortiz)経済金融大臣の更迭。  
：後任にタマヨ氏(元預金保証庁長官)が就任。  
：預金保証庁はイサイアス・グループ系列会社195社を接收。  
：スクレ放送局を閉鎖。  
7月14日：オルテガ・ニカラグア大統領が当国訪問。  
7月15日：チャベス・ベネズエラ大統領が当国訪問。  
「エクアドル石油公社＝ベネズエラ石油公社合併協定」に署名。  
7月24日：制憲議会は新憲法草案を可決。  
7月27日：サルバドル外務大臣がイランを訪問。

### 2. 内政

#### (1) 制憲議会

7月24日、新憲法草案は制憲議会94票の賛成と32票の反対或いは棄権を以て可決された。新憲法草案は、444条を有し、175ページに及ぶ。25日、マナビ県モンテクリスティの制憲議会議事堂に於いて同議会閉会式が行われた。

制憲議会閉会式には、コレア大統領はじめ各閣僚、パスマーニヨ(Patricio Pazmino)憲法裁判所長官、外交団、国際機関代表、エクアドルの児童・青少年代表、メディア関係者等約800名の招待客が出席した。

制憲議会は、定められた会期、7月26日以内に新憲法草案を可決及び提出し、TSEは、新憲法草案の可否を問うレファレンダムに関する今後のスケジュールをこれまでの計画どおり確定した。スケジュールは以下のとおり。

- (a) 8月13日 選挙キャンペーン開始
- (b) 9月 8日 メディアによる世論調査結果等を含む選挙結果予測報道終了
- (c) 9月25日 選挙キャンペーン終了
- (d) 9月28日 レファレンダム実施
- (e) 10月14日 レファレンダムの公式結果発表

#### (2) スクレ放送局閉鎖

7月8日、通信監督庁(Superintendencia de Telecomunicaciones)は、電気通信法第20条に則り、国家電気通信審議会(CONARTEL: Consejo Nacional de Radiodifusion y Television)決議によるとして、スクレ放送局(700kHz AM)及びクピド放送局(95.3MHz:スクレ放送局子会社)との電波使用権契約を更新しないと発表した。

スクレ放送局は1988年7月放送を開始し、グアヤキル市を拠点として国内16のステーションを持つ放送会社である。電気通信法 第20条「電波使用権の獲得要件」の一つ、月々の電波使用権料を支払っていなかったとされている。

#### (3) イサイアス・グループ系列会社接收

7月8日、預金保証庁(AGD: Agencia de Garantias de Depositos)は経済租税再編法(Ley de Reordenamiento en materia economia y tributaria)第29条に従い旧フィラン銀行(Filanbanco)の経営者であるイサイアス・グループの系列会社の財産を接收すると発表した。同日、預金保証庁及び、エクアドル国家警察はイサイアス・グループ系列会社 計195社を接收した。

フィラン銀行は1998年12月2日に倒産し、政府の手に渡った。エクアドル中央銀行は4億2,9

58万ドルの債務返済を肩代わりし、預金保証庁より3億ドルの債務返済融資を受けていた。2008年2月26日、銀行監督庁(Junta Bancaria)の発表によれば、倒産時の同銀行破産額は6億6,150万ドルに及ぶとしている。債権者数は明確ではないが6万人以上とも言われている。経済的影響は22億ドルともいわれている。

9日、制憲議会は政令第13号を承認した。預金保証庁の一連の措置の合法性が認められた。

#### (4) 人事

##### (イ) 水担当大臣ポストの新設

6月5日、コリア大統領は新設された水担当大臣(Secretario Nacional del Agua)ポストにフラド(Jorque Jurado Mosquera)氏を任命した。

##### (ロ) 制憲議会議長の辞任

6月23日、アコスタ(Alberto Acosta)制憲議会議長は辞任の意向を表明し、24日制憲議会総会にて辞任は可決された。後任にコルデロ(Fernando Cordero)制憲議会第一副議長が任命された。新憲法提出期限に関し、会期を遵守し新憲法策定に早くコリア大統領と優れた憲法を策定する時間が足りないと言主張するアコスタ議長との間で意見の相違があった。

##### (ハ) 工業競争力大臣の交替

6月19日、サガスティ(Raul Sagasti)工業競争力大臣が辞任し、コリア大統領は後任にアバド(Javier Abad)氏を任命した。

##### (ニ) 経済金融大臣の更迭

7月8日、コリア大統領は、オルティス(Fausto Ortiz)経済金融大臣を更迭し、後任にタマヨ(Wilma Salgado Tamayo)女氏を任命した。預金保証庁(AGD)によるイサイアス・グループ接收問題に関しコリア大統領と、接收に反対するオルティス大臣との間で意見の相違があった。後任のタマヨ大臣は預金保証庁長官を務めた経歴を持っている。

### 3. 外交

#### (1) 対コロンビア関係

去る3月1日にコロンビアにより行われた我が国主権侵害は、二国間協定や国際法に反するものである。従って、3月3日、エクアドルはコロンビアとの外交関係断絶を決断した。エクアドルの姿勢は、リオ・グループやOASにより支持され、これら組織はコロンビアによる行為の非合法性を確認した。

その後、関係改善の努力が続けられていたが、6月6日、カーター元米大統領は、コリア大統領及びウリベ・コロンビア大統領に対し、臨時代理大使レベルでの外交関係回復を要請した。両国は、カーター元大統領のたつての要請でもあることからその意見を受け入れた。

23日、コロンビア政府は、コリア大統領がアルゼンチンにおけるコロンビア非難に端を発し、カーター元大統領との約束にもかかわらず、エクアドルとの外交関係回復を先延ばしにすると述べた。

24日、サルバドル外務大臣は、コロンビアによる再度の協定不履行に鑑み、エクアドルがコロンビアとの外交関係回復を撤回すると公表した。

26日、エクアドル・コロンビア二国間外交関係正常化を目指し米国カーター・センター及び国連開発計画(UNDP)の支援を受けた二国間対話グループがコリア大統領と会談を行ったが不調に終わった。

28日、コリア大統領は「コロンビアは外交関係回復を提案したが、我々は外交関係回復を無期限撤回した。」と言明した。米国カーター・センターは、コリア大統領に外交関係回復の意思が見られないとし、エクアドルとコロンビア間の外交危機の仲介役を今後果たすことはしないだろうと言明した。

7月2日、エクアドル外務省は、エクアドル政府が、ベタンクール元大統領候補、米国人3名及びコロンビア人11名のFARC人質解放に関して満足の意を表明し、エクアドルは、FARCに対し

残りの人質全員を早急且つ無条件に解放するよう再度要求すると伝えた。

30日、インスルサOAS事務局長はエクアドルを訪問し、コレア大統領と会談した。インスルサ事務局長は、コレア大統領との会談を「非常に好意的な(muy grata)」ものであったとしながらも、「エクアドルとコロンビア間に最終的解決をもたらすためには更に努力が必要である」と述べ、OASの仲介は今後も継続し、「両国関係正常化のために、我々は情報交換の分野で具体的結果を求め続けるつもりである」と述べた。

## (2) 対ベネズエラ関係

7月15日、チャベス・ベネズエラ大統領が当国を訪問し、マナビ県アロモにおいて、チャベス大統領とコレア大統領は、マナビ石油化学・精製所コンビナートの建設起工式に出席し、「エクアドル石油公社＝ベネズエラ石油公社合弁協定(Constitucion de Empresa Mixta PETROECUADOR - PDVSA)」に署名した。上記起工式にはオルテガ・ニカラグア大統領も出席し、経済・エネルギー・生産に関する、コレア大統領、チャベス大統領及びオルテガ大統領の三者首脳会合が実施された。

## (3) 対ニカラグア関係

7月14日、オルテガ・ニカラグア大統領が当国を訪問した。コレア大統領は、去る3月1日のコロンビアによるエクアドル侵害に対するニカラグアの支持に謝意を表明した。オルテガ大統領は、エクアドル・コロンビア間外交関係が改善しない責任はウリベ大統領にあるとし、コレア政権に対する支持を表明し、コロンビアとの外交関係を回復しないという、エクアドルの決断を全面的に支持すると述べた。

## (4) 対ボリビア関係

6月26日、エクアドル政府は、ボリビア各県民投票に関し、モラレス・ボリビア大統領を支持すると発表した。コレア大統領は「エクアドル政府はボリビア政府の安定を揺るがすような行為を拒絶する。我々はボリビアの民主的・制度的体制国家を支持する」と言及した。

## (5) 対イラン関係

7月16日、コレア大統領は、イラン共和国サレイ特派使節を大統領府に招き、会談を行った。コレア大統領は「エクアドルは、イランでの大使館及び通商事務所の設置に意欲的であり、相互の通商・協力を大きな可能性を秘めている」と述べた。サレイ特派使節はコレア大統領に祝辞を述べるとともに、「国際レベルで、我々はエクアドルの変革を注視している。国家の未来を考え、誠実な政府を営んでいる。」と述べた。

7月27日～29日にかけて開催された非同盟諸国運動外相会合に出席するため、サルバドル外務大臣がイランを訪問した。

29日、サルバドル外務大臣は、アフマディネジャード大統領と会見し、コレア大統領からの友好的挨拶を伝達するとともに、二国間の絆をより一層深めたいというエクアドル政府の意思を伝えた。アフマディネジャード大統領は、同大統領がコレア大統領就任式に出席するためにエクアドルを訪問した時のこと触れ、コレア大統領のエクアドル政治・経済を改革するという公約に言及した。また、コレア大統領による崇高なメッセージ(mensaje visionario)を聴き、両国は地理的に遠く離れているのにも拘わらず、両国は国民の最大限の福祉を推進するという共通の目標を持つために二国間関係は強化されるだろうということがありありと思い浮かんだと述べた。イランと公式且つ友好関係を築き上げることに對するエクアドル政府の関心を確認した。31日、駐イラン通商事務所を開設した。

**※以上は、当地新聞情報をつとまとめたものです。**